

学校教育目標	明るい子 がんばる子 自ら学ぶ子 ○人生100年時代の土台づくり「ゆめを大切にし、自ら学び、考え、行動する子」
目指す学校像	ゆめの素(もと)に溢れ、ゆめを安心して語れる学校

重点目標	1 20年後のエンジェンシーを育む確かな学力の育成 2 ゆめが安心して語り合える居場所を保障する教育支援・相談体制・生徒指導の充実 3 地域と児童が共に元気になるコミュニティ・スクールの推進 4 安心・安全な教育活動の推進と環境整備 5 誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる教職員の資質向上と働き方改革の推進
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学校自己評価				学校運営協議会による評価	
		年度目標		年度評価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1 <現状> ○市学習状況調査では、市平均と比較し概ね良好な結果であった。 ○市学習状況調査において学びに向かう力に関する質問に肯定的な回答をした割合は市平均と比べ算数、社会でやや高く、GS がやや低めであった。 <課題> ○教師の授業観の転換は進んでいるが、「伴走者」としての在り方についてさらに研究が必要である。 ○探究的な学びや本物に触れる活動の時間確保が課題である	・主体的・対話的で深い学びに必要な基礎学力の向上 ・学ぶ楽しさを実感する探究型授業の実現とワクワクする教科横断的な教育課程の編成	①全学調、市学調を分析し、より向上させるための授業改善を検討し、実践する。また、実践状況を全体で共有する。【読み・書き・伝える・計算等】 ②全授業者が個々の課題を設定し、学校課題研究を生かして「学び方」「教え方」を改革した伴奏者としての授業を実践する。 ③カリマネを生かして時間を作り、夢に繋がる本物に触れる体験を充実させる(外部講師の招致や体験活動の充実)	①市学調の国算理社の結果が昨年度並みとなっているか。また、児童の意識調査で学びに向かう力が昨年度並みとなっているか。 ②全授業者が管理職や指導者による参観及び指導を受ける。また教員アンケートで関連する項目の肯定的な回答が90%となったか。 ③参加者の満足度 90%となったか。また、カリマネを生かして外部講師招致が全学年で実施できたか。			
		・一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・自己肯定感を高める取組	①いじめ対応に関わるシステムを見直し認知基準に関わる研修を充実させる。 ②スクールカウンセラーの定着や SoLa る一む運用のシステム化を図る。 ①授業、学校生活、行事に児童が主体的に係る場面を設定し、成功体験を実感させる。 ②SoLaルームを必要とする子の個別指導を充実させ、出来る事を増やす。	①政令市平均と比較していじめ認知件数の整合性と丁寧な見守りが図れたか。 ②スクールカウンセラーの記録を効果的に活用する事例を共有できたか。SoLa る一む運用のルールの下、必要とする子が必要な時に使えるか。 ①市学調の「自分には良い所がある」の項目で、6 学年中 5 学年で市平均を上回っているか。(昨年度 4/6 学年) ②SoLa ルームを利用した子について肯定的な行動変容が見られるか。			
心のサポートに関する取組 子どもの発達や	2 <現状> ○市学調の自尊意識の質問に、肯定的に回答している割合が市平均をほぼ上回っている。 ○将来の夢や目標をもっている子は市平均より多い <課題> ○いじめ認知件数が向上し、さいたま市平均より高まっているが、政令市平均よりは低く、認知漏れが懸念される。 ○安心して夢が語れる環境を整え、自己肯定感を高めたい。	・情報発信や学校公開の推進 ・地域と児童との協働活動の実現	①学校ブログ・安心メール、各配付物で児童や学校の様子を適宜発信する。 ②学校教育活動公開、週末の授業公開、地域巡回を進め face to face の機会を大切にする。 ①学校運営協議会を通して地域主催行事との協働活動の場を実現させ、エンジェンシーを育む。 ②児童が主体的に学校運営協議会に参加し成果等発表する	①4月から12月までのブログアクセス数10万件維持(昨年度113,624件)できたか。 ②学校教育活動公開、授業公開の満足度が8割となったか。 ①事前に参加指導児童と地域主催行事担当者との打ち合わせができたか ②学校運営協議会に児童が参加して、課題の共有が図れたか。			
		・迅速な修繕個所の対応 ・学び方、働き方に関わる教育環境の整備	①修繕対応が必要な箇所は関係機関と調整し、対応の早期化を図る。 ②安全第一の関係から、校内巡視(毎日)、安全点検(毎月)を徹底する。(通年) ①R9年度の修繕工事に向けて、関係機関、業者との連携を密にし、年間行事予定への影響が最低限で済むよう計画する	①水回りに関する課題について関係機関との連絡調整を丁寧に行ったか。 ②修繕個所の早期発見、早期対応が適切に行われたか。 ①R9行事計画が修繕工事の計画を踏まえて最低限の影響で計画を立てることができたか。			
学校づくりに関する取組 地域とともにある	3 <現状> ○地域の学校への関心は高く、常時、多くの方が防犯ボランティアとして見守りを行っている。 ○市学調の地域とのかかわりに関する質問で肯定的な回答をした児童の割合は市平均より高い。 <課題> ○学校の教育活動を保護者、地域に様々な手段で伝えることを継続し、学校への関心を高める。 ○地域のために何かしたいと思っている児童は多いが、実際に行動に起こしている児童は少ない。	・「教師の学びと児童の学びの相似形」の実現(自走する研修) ・業務改善を進め、授業準備や子どもと向き合う時間の充実	①教師間の学び合いなど職員室文化の醸成を図る。 ②研究主題をもとに自ら学ぶ研修の実現と授業改善を行う。 ①働きがいがあり、チーム対応力の高い職場風土の醸成を図る。 ②業務改善を意識した仕事への取組 → スクラップ&ビルド ICT活用 見える化の実現 会議の効率化(時間、内容、進め方等) 仕事のシェア チーム(組織)としての対応 等	①自発的に授業を見せ合い議論する場がグループごとに見られたか。 ②研修に関する本校教職員満足度90%となったか。 ①ストレスチェックの結果が前年度程度であったか(R7:男68%、女74%) ②タイムマネジメントを意識し業務にあたり、やりがいや満足感をもちながらも時間外在校時間の縮減に努めたか。			
		○屋上防水、校庭・プールの配管、トイレ等の老朽化や、児童数増加に伴う教室増等、その都度、工夫しながら対応している現状がある。 <課題> ○リフレッシュ工事の延期に伴い、現状、都度都度での修繕対応を行っている。					
教育環境の整備に関する取組	4 <現状> ○教職員のストレスチェック集団分析の結果は概ね良好である。 ○ICT機器に長けた職員が多く積極的にICTを使用して業務を遂行している。 <課題> ○教師が主導する時間が短くなり、こどもにゆだねられている時間が増える伴走者としての在り方の具体策が構築されていない。 ○1か月当りの時間外在校等時間が45時間を越えている職員が26.8%いる。						
		○1か月当りの時間外在校等時間が45時間を越えている職員が26.8%いる。					
教職員のキャリア形成に関する取組	5 <現状> ○教職員のストレスチェック集団分析の結果は概ね良好である。 ○ICT機器に長けた職員が多く積極的にICTを使用して業務を遂行している。 <課題> ○教師が主導する時間が短くなり、こどもにゆだねられている時間が増える伴走者としての在り方の具体策が構築されていない。 ○1か月当りの時間外在校等時間が45時間を越えている職員が26.8%いる。						

学校運営協議会からの意見・要望・評価等